



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 大学生の予算制約、時間制約における選択が行動に与える影響、およびその行動が学生の現在、将来に与える影響                         |
| Author(s)    | 源, 真太郎; 岩永, 颯太; 溝内, 悠太                                                      |
| Citation     | 大阪大学経済学. 2023, 72(4), p. 20                                                 |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/90776">https://doi.org/10.18910/90776</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【2022年度 学部学生による自主研究奨励事業 最優秀研究要旨】

大学生の予算制約，時間制約における選択が行動に与える影響，  
およびその行動が学生の現在，将来に与える影響

源真太郎 岩永颯太 溝内悠太

大学生である我々は，お金と時間の制約の中で行動しており，その中で意思決定を行なっている。その制約の中でも本稿では「奨学金制度」と「勉強時間」に着目し，「奨学金の有無」が「勉強時間」に対してどのような影響を与え，その上で選択された行動が学生生活の満足度にどのような影響を与えるのか検討していく。

大阪大学の学部生 397 人を対象にしたアンケートを用いて，複数の統計手法によって明らかになったのは，奨学金をもらっても学生は勉強時間を増やすとは言えないということであった。このことから奨学金が担うのは「勉強を奨励する」役割ではなく，生活を奨学金非受給者と同等にする「生活補償金」の役割に留まって

いる可能性が示唆された。また，勉強時間の増加がメンタルヘルスの向上に繋がるという有意な結果も得られなかった。このことを踏まえて，経済状況に関係なく学習意欲の高いものに奨学金を給付するアプローチを考え，アンケートの結果から「勉強が楽しい」と分類されたグループに対しても同様の分析を行ったが，結果としては予想と反して奨学金を受け取ると勉強時間を減らす可能性が示された。このことから我々は政策提言として，学問を奨励する役割を持った補助金制度を導入するならば，学習意欲の高い学生に支給するアプローチは不十分で使用用途を研究用途のみに限定したものなどが望ましいと考えた。